

連携パスを用いた連携診療時の バリエーションの定義と対処法（諸星私案）

バリエーション	対処法
再発が疑われる時（非緊急時）： （腫瘍マーカー上昇、無症状の肺結節 等）	2 週間以内程度に連携元の主治医に 医療連携室を介して再受診を申し込む
再発が疑われる時（準緊急時）：（フォロ-CTでの 無症状の再発、呼吸苦を伴わない胸水の貯留 等）	1 週間以内程度に連携元の主治医に 医療連携室を介して再受診を申し込む
緊急時：（大量の血痰/喀血や著明な呼吸苦、 中枢神経系症状を伴う場合 等）	原則として、同日、連携元の主治医に指定さ れた方法(電話等)で連絡し、指示を仰ぐ
超緊急時：意識消失、心肺停止 等	救急隊を要請し、連携元の救急部や近医救急 指定機関に収容 連携元の Dr に連絡
患者が来院せず Drop Out となる場合	指定の方法(電話等)で連携元 Dr に伝達
服薬を長期服用しない時	(予め決めた)一定の期間を経過した場合 連携元 Dr に伝達
その他	連携元 Dr に伝達し、適宜相談し解決へ

* の場合は、その殆どが、パスから逸脱し、終了となります。

* * の場合も終了となる症例が多いかも知れませんが、適宜相談の上解決をお願いします。

は、補助化学療法を行なう場合に考えられるバリエーションとなります。